佐賀県

この努力の先に、
私が向き合う
命がある。

情熱を評価する医学部入試。

医師の資質は、学力だけでは測れない。
そう考える佐賀県は、
今年も医学部特別推薦枠を設けます。
今日までの努力を。
思い描く夢を。
人のために医師の道に進む志を。
あなた自身の言葉で聞かせてください。
医師になる夢を、
佐賀県で。

令和5年度 佐賀大学医学部医学科 佐賀県推薦入学特別選抜学生募集

《募集対象者》

- 佐賀県内で医療活動に従事する意志のある方
- 出身高校所在地は県内外を問いません
- 高校卒業後2年以内の方
（令和5年3月に高校卒業予定の方を含む）

出願期間及び試験日

《 第1次選考 》佐賀県

- 第1次選考出願期間　令和4年11月1日～4日
- 第1次選考（面接試験）令和4年11月12日・13日
- 第1次選考結果発表　令和4年11月15日

※出願者数によっては、書類審査を行う場合があります。

《 第2次選考 》佐賀大学

- 出願期間　令和4年11月16日～21日
- 第2次選考 令和4年11月26日
- 共通テスト 令和5年1月14日・15日
- 合格発表　令和5年2月13日

※新型コロナウイルス感染症への対策として、スケジュールの変更を行う場合があります。詳しくは佐賀県又は佐賀大学のホームページから募集要項をご確認ください。

この入試枠で求める人材とは…

- 佐賀県で医師として地域に貢献したい人
- 医師が不足して困っている地域や診療科を支えたいという意志のある人
- 佐賀県が好き！ 佐賀県で働きたい！ という思いのある人

なぜ 推薦入学 特別選抜を 行うのか？

高齢化に伴い増加する医療需要への対応が求められる中、誰もが安心して医療サービスを受けられるよう、将来の動向を見据えながら、医療提供体制を構築する必要があります。県内の医師数について、人口10万人あたりの水準による比較では、県全体で全国平均を上回っていますが、一部の地域及び診療科では、更なる医師の育成・確保が必要です。本制度は、今後、佐賀県において特に必要とされる医師を育成することを目的としており、卒業後、指定の診療科を専攻し、県内の各地域で医療活動に従事する医師を目指す方を求めるために実施します。

医師のキャリアイメージ

さらなる ステップアップで 地域医療に貢献

医学部合格 ／ 医師国家試験合格 ／ 臨床研修修了 ／ 専門医に

医学部						指定医療機関で臨床研修		指定医療機関で専門研修			指定医療機関で業務従事					
1年	2年	3年	4年	5年	6年	卒後1年	卒後2年	卒後3年	卒後4年	卒後5年	卒後6年	卒後7年	卒後8年	卒後9年	卒後10年	卒後11年

佐賀県医師修学資金

※詳しくは「佐賀県医師修学資金のしおり」をご覧ください。

貸与期間［6年間］ → 必要勤務期間［9年間］

先輩の体験談 × アドバイスを紹介

佐賀大学医学部附属病院

産婦人科医　大原 紀子 先生

生命の誕生、その喜び

高校生のときから、生物など自然科学分野の学問に興味がありました。医師になり、産婦人科医を選んだのは、純粋に赤ちゃんが好きということもありますが、生命の誕生に立ち会い、その喜びを共有できるのは産婦人科医だけだと考えたからです。また同性の医師の方が、患者さんに安心してもらえるのではないかとも思いました。

小さくても力強い生命力に感動

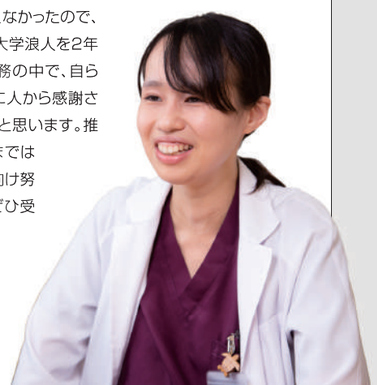
医学生のとき、早産で生まれた小さな赤ちゃんを見てショックを受けたことがありました。でも、産婦人科医としての経験を重ねる中で、小さくても生命力があり、その命は尊く、「おめでとう」と喜べるようになりました。赤ちゃんの誕生直後の泣き声を聞くと、疲れが一気に吹き飛びますし、日々の癒やしになります。
佐賀大学医学部附属病院では産婦人科医の7～8割が女性。働くママも多く、全員で力を合わせて診療にあたっています。

自身のスキルアップが地域医療の向上につながる

産婦人科には周産期医療、生殖内分泌などいくつかの診療領域があります。私は経験を積みながら最終的にどの領域を専攻するか検討しているところです。患者さんが住み慣れた佐賀で安心して治療、出産ができるように、現状に満足せずに努力を重ね、総合的に自分の診療レベルを上げていくことで、地域医療の向上に寄与したいと考えています。

人に感謝してもらえる医師という職業

私は、高校時代、将来が見えない、ぼんやりとした日々を送りたくなかったので、医師になる意志を貫き、大学浪人を2年経験しました。日々の業務の中で、自らも成長しながら、こんなに人から感謝される職業はそうそうないと思います。推薦入学特別選抜は2浪までは受験できますから、夢に向け努力を続けている学生にぜひ受験してほしいですね。



佐賀大学医学部附属病院

脳神経外科　専攻医１年目　古賀 文崇 先生

地域病院の医師不足と憧れから医師の道へ

小学生の頃から漠然と医師になりたいと思っていました。たぶん、憧れのようなものですね。中学、高校と進む中で、地元に医師不足で診療科が減ってしまった病院がありました。これらが私の中でつながって、自分も医療提供体制の一部を担いたいと思い、医師を志すようになりました。現在、臨床研修を終え、脳神経外科に入局して専門研修1年目。脳については解明されていないことも多く、未知の領域がたくさんあり、自己研鑽を積むことで世界が広がるため、学ぶ意欲が尽きません。

患者さんと喜びを分かち合うことがやりがいに

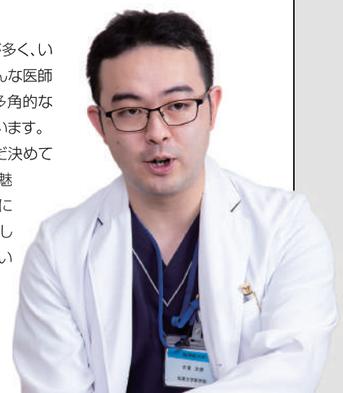
教育機関でもある佐賀大学医学部附属病院では、専門研修1年目の医師でも指導医のもとで、主治医として患者さんを診ますし、手術には助手として加わります。手術後に病気の辛さから解放されて、表情が明るくなった患者さんを見ると嬉しいですし、こういった一つ一つの喜びがやりがいにつながっています。大学病院以外でも、多い時は週2-3回、地域の病院で診察する機会があり、様々な経験をさせてもらっています。

一人では医師になれない

自分一人では社会に求められる医師になれません。何をするにしても一人では見る世界も狭くなり情報が入りにくくなります。普段から周囲の人たちとのコミュニケーションを大切にしてください。特に医学部を志す高校生にはコミュニケーション能力が求められます。そして医学生にもお勧めしているのは部活。医療現場で活躍している部活の先輩には仕事の内容を直接聞けますし、様々な先輩の考えを聞く中で、医師の理想像を固めていくことができると思います。

個性的な仲間を得て、考え方も幅広く

医師は百人百様。個性的な人が多く、いろんな考え方の人がいます。そんな医師たちと一緒に仕事することで、多角的なものの見方を養うことができています。今後のキャリアについては、まだ決めていませんが、今は脳神経外科の魅力を医学生や研修医一人一人に伝え、同じ道に進む後輩を増やしていくことで地域医療を支えていきたいと考えています。



佐賀大学医学部医学科

4年生　平塚 瑠菜 さん

一生かけて探求できることを見つけたい

肺移植などを行う呼吸器外科専門医の父を尊敬し、私も一生かけて探求できることを見つけたいと思い、医師を志望しました。父は知見を広げるため勉強を続けていましたし、病院から連絡があれば食事中でも患者さんのために出かけていきました。「好きだからこそできる」という父の姿を見て、魅力的な仕事だと思いました。

「生きている」命の素晴らしさを感じた実習

2年生の「解剖実習」の授業で献体してくださった方に感謝しながら人体の構造を隅々まで学ばせていただき、その完璧さと「生きている」命の素晴らしさを感じました。5年生からは「臨床実習」が始まりますので、今は、診療科ごとに症例を見ながらグループディスカッションやコミュニケーション力を養う実践的なトレーニングをしています。

メリハリのある学生生活を

生活にメリハリをつけ、勉強を効率よく頑張るために、部活をする学生は多いです。私は体力づくりとストレス発散のためにバレーボール部に入部しています。部活の先輩が勉強のコツなどをアドバイスしてくれるので助かっています。人とつながる場所があることは大事です。
学園祭の準備にも携わりました。当日に向けて全員で一生懸命に準備しながら「青春だなあ」って思いましたね（笑）。

地域病院と基幹病院の連携をサポートしたい

医師と患者という関係ではなく、一人の人間として信頼と親しみを持ってもらえるような医師になりたいです。佐賀県は高齢者の割合が多く、地域の病院と基幹病院が連携し、緊急時にもスムーズな対応ができる医療体制を構築することが大切ですし、自分がその役割の一つを担えたらと思います。
医学科は医師として必要な知識が得られるだけでなく、志を同じくする仲間と切磋琢磨することで、精神的にも成長できます。医師は一生誇りに思える、やりがいのある仕事だと思います。

佐賀大学医学部医学科

2年生　仁部 俊太郎 さん

父を亡くして気づいた「医師になりたい」思い

高校3年生のときに医学科以外で大学を受験しましたが、受験後に父ががんで亡くなりました。父の闘病中はコロナ禍の影響で面会もままならず、自分が何もできない無力感がありました。それがきっかけで「医師になりたい」という思いが強くなり、合格発表を待たずに医学科を受験するため大学浪人を決めました。
進路を変えることに関して、母は「自分が決めた道ならば」と背中を押してくれました。将来、様々な症状や重症度の患者さんを幅広く助けられる外科又は救急科の医師になりたいと思い、推薦入学特別選抜に応募しました。

勉強と部活を両立してキャンパスライフを楽しむ

大学では1年生の後期から徐々に生物学の応用が始まって、2年生では基礎医学を履修します。「2年生が一番大変」と先輩から聞いていましたが本当のようです（笑）。とにかく暗記する量が多くて。それでも医師になる目標に向かって積み上げていることなので、毎日、充実しています。授業以外でも部活、アルバイトなどを経験したいと思い、うまくスケジュールを組むことで、キャンパスライフを楽しんでいます。

患者さんに寄り添う医師に

小学校から野球をやっていたので、整形外科を中心に地域の病院によくお世話になりました。お医者さんに声をかけてもらうと、それだけで安心したことを思い出します。将来は、患者さんが不安に思うことにしっかりと耳を傾け、県民の皆さんを安心させられるような医師になれるよう努力していきたいです。

諦めずに、医師になる夢を叶えて

医学科進学を決める前は何になりたいではなく、有名大学に行くことが目標になっていました。今、「医師になる」という、はっきりとした目標が、日々頑張るためのモチベーションにつながっています。
皆さんの中には、学力に不安があり医学科進学を諦めている人もいるかもしれません。でも、医師になりたいという想いがあるのならば、浪人してでも頑張る価値があると思います。諦めずに努力して、医師になる夢を叶えてください。

佐賀大学医学部 **キャンパスライフ** 佐賀県がサポートするイベントの一例

佐賀大学・自治医科大学・長崎大学 合同夏期実習［1～4年生対象］

高度救命救急センター
［場所］佐賀大学医学部附属病院 等
■施設見学・講義 等

離島実習
［場所］加唐島・小川島・馬渡島 等
■診療見学・診療体験 等

山間部実習
［場所］七山診療所 等
■巡回診療見学 等

地域医療について
［場所］県内各病院、診療所 等
■グループディスカッション・発表 等

夏期実習参加者の感想

医学部1年生

私はこの離島実習を通して、離島の現状について学ぶことが出来ました。百聞は一見に如かずと言いますが、やはり自分の目で耳で感じ、体験することでよりリアルな現状を知ることが出来ます。

医学部2年生

初日に佐賀大学医学部附属病院の救命救急センターで、ドクターヘリやICUの様子などを見学するとともに、エコーなどを体験させていただきました。救命救急センターの先生のお話を聞いて、救急医療に求められるものはスピードと連携であることを学びました。

医学部4年生

「地域医療」とは何なのか、今まで3回の夏期実習を通して分かったことは、座学では学べない部分が多くあるということです。やはり地域医療がどのように行われているかを知るには、実際の地域医療の現場で、自分の目で見ることが何よりも大切なのだと分かりました。

佐賀県推薦入学特別選抜

受験資格

1. 佐賀県内で医療活動に従事する意志のある方
2. 出身高校所在地は 県内外を問いません
3. 高校卒業後2年以内の方(令和5年3月に高校卒業予定の方を含む)

選考方法

1. 第1次選考は佐賀県が行います。合格者は佐賀県の推薦により佐賀大学医学部による第2次選考を受験する資格を得ます。
2. 最終合格者は4名(予定)です。

入学後の義務

1. 在学中は佐賀県医師修学資金の貸与を6年間受けていただきます。
2. 卒業後は佐賀県内で臨床研修を受け、その後は佐賀県内の指定診療科(※)で9年間医療活動に従事していただきます。

※内科、小児科、外科、産婦人科、脳神経外科、麻酔科、救急科、総合診療科
詳しくは「佐賀県医師修学資金のしおり」および「佐賀県キャリア形成プログラム」をご覧ください。

佐賀県

佐賀県 医務課 医療人材政策室

〒840-8570 佐賀県佐賀市城内一丁目1-59
TEL：0952-25-7358 E-mail：imu@pref.saga.lg.jp 佐賀県推薦入学特別選抜

さがで働く医師を応援
佐賀県医師支援サイト〉